



市報

ちようふ

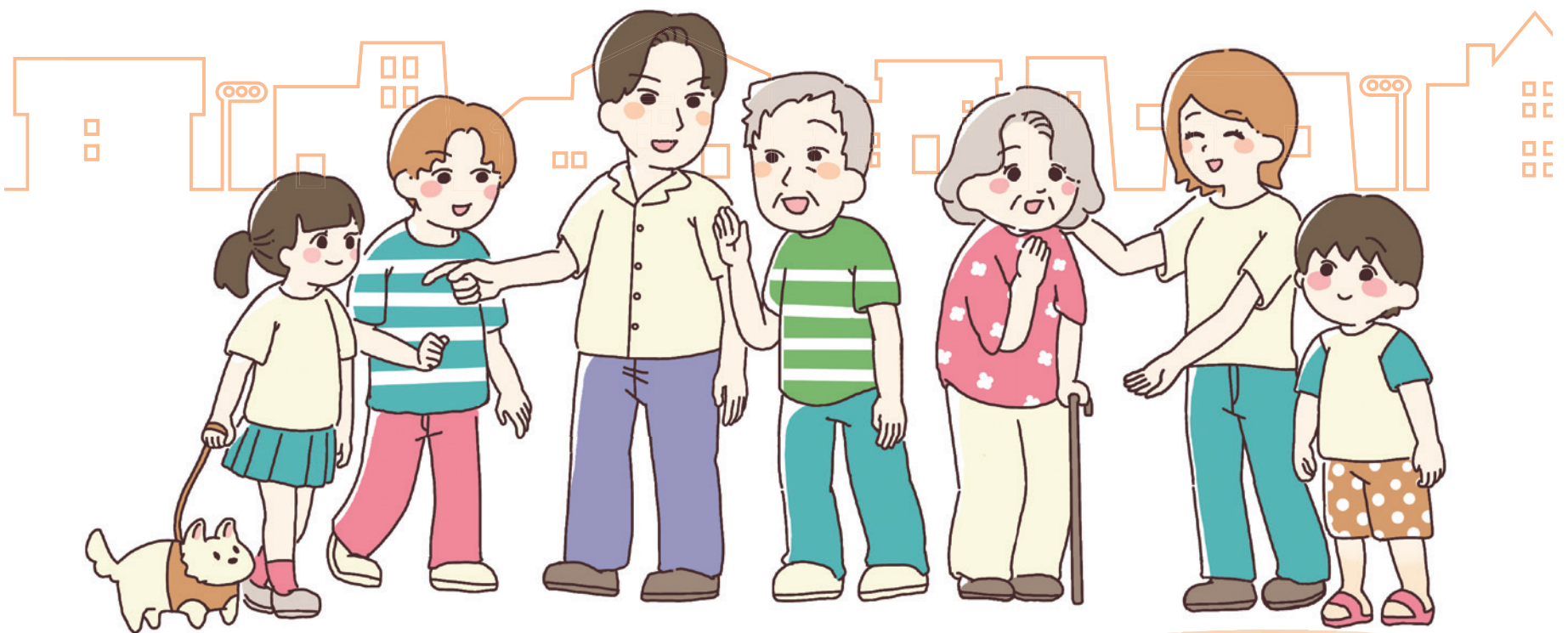
CONTENTS(主な内容)

9月は「認知症サポート月間」	2・3
中小河川の急激な水位上昇に注意	4
第42回調布市民スポーツまつり	10
調布よさこい2024	16

9月は

「認知症サポート月間」

認知症を知り、共に生き支えあう
未来あるまちづくり



認知症を知り、学ぶ機会や
イベントがあります

☎高齢者支援室 ☎042-481-7150

詳細は2・3面をご覧ください➡

手をつなぐ樹 448



合わせ技一本

まさに肌を刺すような陽光を浴びて、多少めまいを覚えるような感覚に浸りながら、この暑さを自分自身でどう受け止めるべきかと考えている。

子どもの頃、夏休みの間は雨が降らない限り、来る日も来る日も朝から夕方まで丸一日炎天下で遊んでいた。それでも体の具合が悪くしたというような経験は皆無であり、過信ではないが、自分は暑さには強いのだとついこの間まで単純に思い込んでいた。しかし、最近はずがに熱風の中に身を置くと一気に疲労を覚えるようになった。古希を過ぎた現在、やはり残念ながら抵抗力が衰えてきたと言わざるを得ないのか。

ただ、昔と比べて暑さの程度が異なるとの見方があることも確かだ。そこで、自分が小学校時代を過ごした大阪の昭和30年代後半の夏の気温を調べてみた。結果は多少意外なことに、その時代の7月、8月の平均最高気温は毎年32℃、33度程度で常に30度は超えていた。

総合的には、どう判断すればいいのだろうか。確かに60年前も夏の最高気温は連日30度以上だった。しかし、わずかの差とはいえ、やはり35度以上になると身体が受けるダメージは相当違うのだろうか。

寄る年波と一段高い猛暑、柔道でいう合わせ技一本か。いずれにしても、思い起こす遠い昔の自分の姿がゆらゆらと陽炎のように消えていく。

調布市報

友友貴樹